

# どんぼり池の話

〈第一話〉



ページが欠けていますので、直します。

「あの時にや、雲が低う降りて、おまけにすごい巻き風が起こつてようは見えなんだが、とにかく『どんぼり池』の上にはや、どえらあもんが、二つ縄のようからんで登つてつたもんじや、おらあ、びつくらこうて、声も出せずに、そこで気失つとつた……。」と。

それが、二匹の親竜の昇天であつた。

それから村は平和で、変わりはないが、ただ、夜ふけに川縁を歩く人々の口から、  
「あそこを夜ふけに通ると、犬の遠吠えに似たわびしい泣き声が聞こえる。」

と言われていた。親竜の昇天した後、子竜が残つてその後を守っていたのかもしれない。

それから村は町となり、ついに「どんぼり池」も埋められることになつたが、その時には、もう子竜の姿は見当らなかつたという。